中学校社会科・公民的分野　学習指導案

日　時　2021年〇〇月〇〇日(〇)　第〇校時
場　所　◎◎市立◎◎中学校
対　象　第３学年〇〇組　(男子〇〇人　女子〇〇人　合計〇〇人)
指導者　倉橋　忠

1　単元名

現代社会の特色と私たち

2　単元目標

(1)　現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解させる。

(2)　位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現させる。

(3)　私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。

(4)　単元全体を通した観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解している。	位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

3　単元について

(1)　教材について

本単元は、学習指導要領の社会科公民的分野の「２内容」の「Ａ　私たちと現代社会　(1)　私たちが生きる現代社会と文化の特色」を学習内容とする。

学習指導要領で示されている学習内容の指導順は、原則として授業者(教員)の創意工夫に委

ねられている。しかし、本単元の学習内容の「私たちが生きる現代社会と文化の特色」は、「(2) 現代社会を捉える枠組み」とあわせ、「３内容の取り扱い　イ」により、公民的分野の「導入部」に位置づけられ、公民的分野の学習指導で最初に扱うことが義務づけられている。

本単元で扱う「現代社会の特色」は、改訂学習指導要領の求める「課題解決を通して学ぶ」ことを具体化する「問題」であると同時に、公民的分野の学習全体を方向づける「問題」と「解決すべき課題」の所在のありかを示すものであると理解できる。そのため、日常生活と公民的分野で獲得する教科専門的概念を結びつけやすい教材を選択する必要がある。

そして、学習指導要領が示す本単元にかかる教育目標は、「知識」では「(ｱ) 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解すること。(ｲ) 現代社会における文化の意義や影響について理解すること。」を身に付けることである。また、「思考力・判断力・表現力」については「(ｱ) 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現すること。(ｲ) 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現すること。」を身に付けることである。

なお、これらの教育目標は、「位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して」身に付けることが出来るようにしなければならない。

さて、「少子高齢化」、「情報化」、「グローバル化」の問題は、相互に影響を及ぼしつつ、他の多くの社会事象と連鎖している複合的な社会問題である。

仮に、「少子高齢化」問題に注目すると、少子高齢社会と一人ひとりの暮らしとの関係性は家族生活のあり方や社会保障制度を通して具体的に捉えることが出来る。さらに、暮らしを支える労働環境や社会経済との関連、財政問題や税制度などの様々な視点から追究すべき多くの課題がある。それらの課題を学ぶ際には、一つ一つの課題を切り離して単独で扱うのではなく、相互に関連させながら多面的・多角的にそれぞれの社会事象の関係性を理解できるようにして、今後の公民的分野の学習への道案内として役割を果たせる教材の提示が必要である。

そこで、はじめに、私たち一人ひとりの日常生活が社会との関係で成り立つことを読み取ることが可能な具体的な事例や、日常生活のあり方が変遷してきたことを具体的に比較検討できる教材を提示して、生活概念・素朴概念と科学的概念の結合を図るための条件を整えたい。

次に、社会の人口構成の推移や変化を事実に基づいて理解し、現在の問題点の所在を確かめ、「少子高齢化」によって将来にどのような問題がおこる可能性があるのかを生徒が推理できる教材として統計資料を準備する必要がある。

その上で、「少子高齢化」の影響を個人として克服する方法を主体的に探究したり、国民の経済的生活への影響や社会保障制度の維持についての課題を解決方法を主体的にかつ具体的に模索できるような教材を準備する必要がある。

(2)　生徒について

公民的分野の学習に入る前に、生徒たちは地理的分野と歴史的分野でわが国の文化や経済活動の歴史性及び国際的なつながりをすでに学んでいる。その一方で、人口問題や情報化などの進展が、政治や経済的な発展、社会構造に大きな影響を与えることについて、それらを関連付けて深く学ぶことはしていない。

また、生徒たちは社会科学習について、知識を「暗記」すれば良いと思い込んでいる傾向が強い。そのため、仮に学習過程で思考することがあっても、知識内容を理解するための「思考」に留まっていて、社会事象と自らの日常生活や将来の暮らしとの関係性を「思考する」ことのできない生徒が多く見られる。

そこで、本単元の学びを通して、自分たちが直面している現代社会の課題を正しく理解し、学んだ知識を活用して、より良い社会を形成するために、自分たちがどのように行動し社会参画するべきなのか、生徒たち一人ひとりが主体的に思考・判断して課題解決するために追究しようとする学習意欲と学び続けようとする態度を育てたい。

(3)　指導の重点について

「知識」の指導の重点は、わが国の現代の社会における少子高齢社会・情報化・グローバル化の様子と、それらが将来の暮らしに与える影響を理解させることである。少子高齢化については、近年の少子化の進行と平均寿命の伸長によって、わが国の人口構造が変化し、世界で類を見ない少子高齢社会を迎えていることや、少子化が一層進み人口減少社会となっていることを理解させたい。また、情報化については、高度情報通信ネットワーク社会の到来により、世界中の人々と瞬時にコミュニケーションをとることが可能になったことや、様々な情報が公開、発信、伝達される状況であることを理解させたい。そして、グローバル化については、大量の資本や人、商品、情報などが国境を越えて容易に移動することができるようになり、それに伴い国内外に変化が生じていること、各国の相互依存関係が強まっていること、共存のために相互協力が必要とされていることを理解させたい。

一方、「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について、多面的・多角的に考察させる。その考察を踏まえて、生徒が主体的に問題点を指摘したり、実現可能性をふまえた課題解決のための公正な方法を具体的に模索する学習活動に挑戦させたい。

ただし、本単元は公民的分野学習の「導入」であり、今後の学習のための「解決すべき課題」を明確にする「単元」でもある。そのため、少子高齢社会・情報化・グローバル化は、多くの社会事象や解決すべき課題と重層的に関連していることを理解させることも重要である。それぞれの問題点を解決する方法を探究することは容易ではないことを気付かせたい。

4　指導計画(全４時間)

単元「現代社会の特色と私たち」の構成(全４時間)。

１時間目：持続可能な社会に向けて

２時間目：グローバル化　結び付きを深める世界

３時間目：少子高齢化　変わる人口構成と家族　(本時)

４時間目：情報化　情報が変える社会の仕組み

5　本時の指導過程

(1)　本時の目標

①　人口ピラミッドなどの統計資料をもとに、日本における少子高齢化の進展と、その原因を推理し説明できるようになる。

②　少子高齢社会における課題を発見し、その課題を解決する取り組みを調べたり、自分の取るべき行動の選択肢と理由を説明できるようになる。

本時の目標を設定した主な理由は、少子高齢社会問題の存在を知ることだけでなく、中学生が少子高齢社会問題を「自分の問題」として捉え、社会問題と自分の将来の暮らしとの関係性を主体的に思考・判断し、表現できる力を養いたいからである。

はじめに、わが国が人口減少社会を迎えて、家族との生活、学校や地域社会での生活が変容してきていることや、労働力需給や経済活動など社会活動に大きな影響が出ていること、また、医療や年金など社会保障費の負担が増大していることを理解させる。それらの理解をふまえて、少子高齢社会の課題を発見させたい。その後に、国や地方自治体の対策に触れ、課題解決の困難さを感じ取らせて、「より良い社会を形成するため」には、生徒一人ひとりが主体的にどのように関わるべきなのかを考えさせる。

「少子高齢社会」は、少子化社会と高齢化社会の社会事象が重なって起きている問題である。高齢化の進行は人道的に防ぐことはできない。生活環境の向上、栄養事情の向上、戦争がなかったことなど、むしろ長寿は喜ばしいことである。「高齢社会」の課題は、高齢者の生き甲斐をどのように実現し、健康で最低限度の生活が出来る社会保障制度の維持をどのようにするかである。

それに対して、「少子化社会」による人口減少の進展は、社会構造全体の変化を招来し、社会活動全体が停滞する状況を引き起こすであろう。そのため、少子化を止めつつ、男性も女性も共に生き甲斐を感じ取れる社会をどのように実現するかが課題になる。それは同時に、中学生の個人の生き方とも直結する課題である。

(2)　本時の教材

本時では、「少子高齢社会」を資料から適切に情報を読み取り、客観的に理解し、課題の所在

を発見し、課題解決のための方法や自分が取れる行動を生徒たちが主体的に模索できるような教材群を準備したい。そして、検証する学習活動を通して資料と「対話」する場面を設定する。

まず、少子化の背景について、教科書(東京書籍『新しい社会　公民』2021年版 p. 12)は、「少子化の背景には、働くことと子育てとの両立の難しさや、結婚年齢の高まりなどによる合計特殊出生率の減少があります。」としている。この説明を理解するためには、具体化して中学生が自分たちの暮らしに引き寄せて推理できる情報が必要である。そこで、働くことと子育ての両立の困難さの実情や、晩婚化の要因など少子化の原因を推理できる教材(新聞記事)を準備する。

さらに、教科書(p. 12)は、「社会の変化とともに、家族の形も多様化しています。日本の家族は、戦後、祖父母と親と子どもとで構成される『三世代世帯』の割合が低下し、親と子ども、あるいは夫婦だけの核家族世帯の割合が高まりました。近年は、一人暮らしの単独世帯の割合も高まっています。また、共働きの世帯や高齢者だけの世帯が増えたことで、育児や介護を家族だけで担うことが難しくなっています。」とする。この説明文を検証する資料もなしに、そのまま読むと「核家族世帯の増加」が「三世代世帯の減少」や「育児や介護」を困難にする要因のように受け止めるおそれがある。しかし、「三世代世帯の減少」は「高齢者世帯」や「単独世帯」の増加の結果であると解釈できる。その背景には家族による高齢者介護の負担がある。これらの統計資料を扱う際には、共働きの背景を推理できる話題(高校進学率や介護の様子)を提示したい。

また、育児や高齢者介護の対策について、教科書(p. 13)は「こうした世帯には、地域社会での関係が重要です。育児に不安やストレスを感じている人への援助や、一人暮らしの高齢者への声かけや見守りなど、地域に生活する人々を地域社会全体で支える仕組みづくりが求められています。災害などの緊急時に、たがいに助け合う仕組みづくりも、ますます重要になっています。」と地域住民の協力の必要性を強調する。この視点は崩壊しつつある地域コミュニティの再構築という地方自治と地域住民の暮らしの重要な論点を提示する。この点は中学生が地域社会に主体的に参画することを考えさせたい場面であり、地方自治を学ぶ際の布石としておきたい。

しかし、少子高齢化問題への対策としては、「地域社会の取り組み」だけでは不十分な視点である。少子高齢社会問題は社会構造的に生み出される「社会的弱者」を襲うだけでなく、社会全体の停滞を余儀なくする問題だからである。そのため、生徒たちが解決方法を探るためには社会的制度に視野を広げることを可能にする教材(資料)が必要である。今後の公民的分野の学習内容の展開を考慮すると、多面的・多角的な視野を養うための情報として、育児休暇制度、年金制度、介護保険制度などの社会保障制度や、財政問題や税制度などの概略を伝えておきたい。

(3)　準備物

①　教科書『新しい社会　公民』東京書籍 2021年版 pp. 12-13。

②　「少子高齢社会到来」「結婚のぞまない若者」を報道する新聞記事(社会科通信)

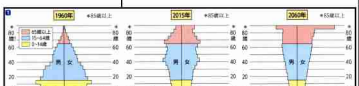
③　「女性の社会進出と合計特殊出生率の関係を示すグラフ」(社会科通信)

④　「男性の育児・家事労働時間を国際比較するグラフ」（社会科通信）

⑤　プレゼンテーション用にスライド化した教材。

⑥　ＰＣ及びプロジェクター。

(4)　展開

	学習活動（予想される発言内容）	教師の支援・教材（ゴシック体はキーワード）	評価・評価の方法
導入	○教科書12頁～13頁「少子高齢化」をマル読みする（朗読・黙読）。 ○本時の学習目標を知る。	○教科書12頁～13頁をマル読みするよう指示をする。 ○本時の学習目標の説明を簡潔に行う。「①統計資料を読み取り、日本における少子高齢化の進展と原因を推理し説明できるようになること、②少子高齢社会における課題を発見し、その課題を解決する取り組みを調べたり、自分の取るべき行動の選択肢と理由を説明できるようになることです。」	○朗読者の声を聞きながら黙読していることを視認する。 ○朗読する生徒の真横に立つように机間を移動しながら、教室全体の様子を観察する。読みにつまずきがあれば小声で支援する。 ○少子高齢社会は、少子化と高齢化が同時におきている社会事象であることを説明できる。（知識）
	○教科書内容の概略を聞く。 ○少子高齢社会は少子化と高齢化が同時に起こっている社会事象であることを知る。	○教科書の内容を簡潔に説明する。 ○「私たちが暮らす日本では、**少子化**が進むことと、**平均寿命**が延びて高齢者が増加する**高齢化**が同時におこっています。子どもの数が減り人口に占める高齢者の割合が高まった社会を**少子高齢社会**と言います。日本は世界でも類を見ないほどの少子高齢社会になっています。」	
	○本時の授業展開の流れを知る。	○「今日の授業では、はじめに日本の**人口構成**がどのように推移してきたのかを確かめます。その後に、少子高齢社会の問題と解決策を考えていきます。最後に、『少子化』を解決する方法をみんなで考えたいと思います。」	
	○板書をノートプリントに写す。	○ノートプリントの６行目までを板書する（プリント構造・内容をそのまま板書）。この後、板書は展開に合わせて適時追加する。	
	○人口ピラミッドのグラフに注目する。	○「では、統計的に日本の人口がどのように推移してきたのかを確認しておきましょう。12頁の**人口ピラミッド**を見て下さい。」  	○人口構成を表す人口ピラミッドの特徴が富士山型・釣り鐘型・壺型へと推移していることを読み取ることができる。（資料活用技能）
	○高齢者の定義を確認する。（「満65歳以上の人」）	○「はじめに質問。**高齢者**って何歳以上の人を言うのでしょうか。」 「そうですね。今は満65歳以上の人を高齢者としています。」	○高齢者は満65歳以上の人であることを説明できる。（知識）

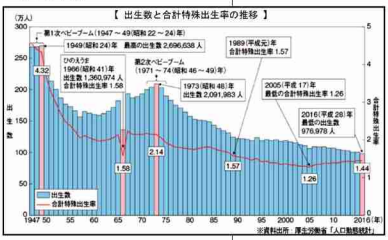
展開	○統計上の「現役世代」と「子ども」に扱われる年齢を考える。	○「では、人口ピラミッドでは満16歳以上の人を**現役世代**、満15歳以下を**子ども**として扱っています。どうしてだと思いますか。」 ○「満16歳以上は義務教育を卒業して就業つまり働きに出ることの出来る年齢だからです。」	○統計上、満16歳以上の人を現役世代として扱っていることを説明できる。（知識）
	○1960年の人口ピラミッドの人口構成の特徴を読み取る。	○「1960年で一番多い人口の年齢層は何歳くらいですか。」「そうですね。10歳代から20歳代が最も多い形です。このような形を**富士山型**と言います。」	○富士山型の人口構成は若年層が最も多く高齢者になるほど少なくなる特徴を説明できる。（知識・技能）
	○2015年現在の人口ピラミッドの人口構成の特徴を読み取る。 ○2015年現在の60歳代後半が第一次ベビーブーム世代、40歳代前半が第二次ベビーブームの世代であることを知る。（「2015年は高齢者が多く子どもは少ない」）	○「2015年現在を見ます。一番人口の多い年齢層は何歳代ですか。」「そうですね。60歳代後半と40歳代前半が**多く**なっています。このような形を**釣り鐘型**と言います。60歳代後半の人たちが第一次ベビーブーム、40歳代前半の人たちが第二次ベビーブームの世代と呼ばれています。子どもの数は多いですか、少ないですか。」「そうですね。2015年は高齢者が多く子どもの少ない**少子高齢社会**です。」	○2015年現在は「少子高齢社会」の特徴を示す「釣り鐘型」の人口構成になっていることをグラフから読み取り説明することが出来る。（知識・技能）
展開	○2060年の人口ピラミッドの人口構成の特徴を読み取る。（「80歳を超える世代の人たちが最も多く、50歳代以降の若年層が少ない逆三角形」）	○「2060年の人口を予想したグラフではどうなっていますか。**壺型**と呼ばれる形です。特徴はどのように説明できますか。」「そうですね。80歳を超える世代の人たちが最も多く、50歳代以降の若年層が少ない逆三角形の人口構成の**超少子高齢社会**になると予想されています。」	○2060年には80歳を超える世代が最も多くなり、50歳代以下の若年層になるほど少なくなる超少子高齢社会になることを説明できる。（知識・技能）
	なぜ、高齢者が増えるようになったのだろうか？		
	○高齢者が増加し続けてきた背景を推理する。（「戦争がなかった」「飢饉がなかった」「食生活・栄養状態が改善された」「住環境や衛生環境が改善された」医療技術や医薬品が進歩した」など）	○「次に、**高齢社会**の問題について考えていきます。では、質問します。どうして戦後にこんなに高齢者が増え続けてきたのでしょうか。誰か説明できますか。」 ○「そうですね。**戦争**がなかった、**飢饉**がなかった、**食生活・栄養状態**が改善された、**住環境**や**衛生環境**が改善された、**医療技術**や**医薬品**が進歩したなど様々な条件が合わさって**平均寿命**が延びたと考えることができます。」 ○「では、少子高齢社会になって**家族構成**はどのように変わったのでしょうか。」 ○「たとえば、**核家族化**と少子化は直接的に関係があるのでしょうか。**核家族**とは夫婦、夫婦と未婚の子どもで成り立つ家族のことです。**核家族化**とは核家族が増加することを言います。」	○高齢者が増加し続けてきた背景に、戦争がなかった、飢饉がなかった、食料事情が改善された、衛生環境が改善された、医療技術が進歩した、社会保障制度が整備されたことなどの条件が合わさって平均寿命が延びたことが説明できる。（知識）
	○教科書12頁の「家族	○「教科書12頁の『家族類型別世	

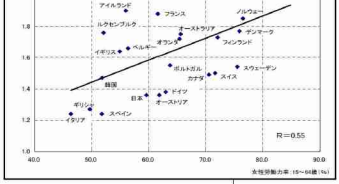
類型別世帯数の推移」のグラフが示すデータの特徴を読み取る。 ○家族類型の推移を表すグラフから、核家族と子どものいる家族の変化を読み取る。	帯数の推移』のグラフを見て下さい。**核家族世帯**の内で子どものいる**世帯**は増えていますか。」 **❷家族類型別世帯数の推移**(「国勢調査報告」平成27年はかり　近年では20歳代に結婚していない人の割合が増えており、男性が23.4%、女性が14.1%です(2015年)。	○子どものいる世帯は、1960年の45.8%から、2015年には35.8%に減少していることが指摘できる。(資料活用技能)
(「夫婦二人や一人暮らしの世帯です。」)	○「人口は減っているのに世帯数は２倍以上に増えています。増えているのは どんな世帯ですか？」「夫婦二人や一人暮らしの世帯です。高齢者だけの世帯が増えていると考えられます。」 ○「子どもが成人して独立すると高齢の親夫婦だけの核家族になります。少子化と核家族化を結びつけることは無理があるようです。」	
(「豊かな高齢者は有料老人ホームで暮らしている」「三世代が同居できる住宅がない」「転勤による転居が続く」「現役世代は育児だけで精一杯」など)	○「ところで、なぜ、**高齢者世帯**が増えるのでしょうか。」 ○「難しいですか。実は、豊かな高齢者は有料老人ホームで暮らしています。また、**三世代**が同居できる住宅がない、転勤による転居が続く、現役世代は育児だけで精一杯などの理由が考えられます。」	○高齢者世帯が増加している理由を推理できる。(思考力・判断力)

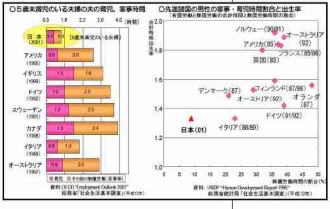
2055年から2060年に最も少子高齢社会の問題が大きくなると考えられます。その時、君たちは何歳くらいですか。その時の高齢者は君たちから見てどんな関係の人たちですか。

○現在の中学生・自分たちが50歳から55歳くらいの頃には、少子高齢化問題が最も深刻になっていることに気づく。 ○少子高齢社会で起こる問題点を教科書の記述から探す。(公的年金や医療、介護などの社会保障に必要な費用が増加する。若い世代の負担が重くなる。)	○「そうですね。今が2021年ですから、約40年後の君たちが55歳くらいの頃が最も深刻な時だと言えます。その時の高齢者は君たちの保護者です。つまり、**少子高齢社会**の問題が直撃するのは君たちの世代だとも言えるのです。」 ○「**平均寿命**が延びたことは喜ばしいことだと言えるのですが、教科書には、今後、さらに少子高齢社会が進むとどのような問題が起きると説明されていますか。誰か説明してください。」 ○「そうですね。**医療費**の増大や**年金制度**などの**社会保障制度**を維持することが困難になり始めます。それは教科書に書かれています。」「教科書13頁の国民の年金負担の図を見て下さい。」	○少子高齢社会の問題が最も大きくなるのは今の中学生が55歳くらいの時だと説明できる。(知識) ○少子高齢化問題が自分たちの世代を直撃する深刻な社会問題であり、自分なりの解決方法を考えなければならないことに迫られていることを説明できる。(知識) ○高齢社会が抱える問題は、医療費の増大、年金制度の維持が困難になる、高齢者の日常生活の介護などがあることを指摘で

				きる。(知識、思考力・判断力)
	○基礎年金について若者の負担が重くなることの解決方法を考える。(「年金額を減額すれば良い」「税金を上げる」など) ○現行の基礎年金の支給額でも高齢者の生活は厳しいことを知る。(「もらえる年金が減ると一生涯働かないと生きていくことが出来なくなる」「死ぬまではたらくのかぁー」) ○教科書の記述内容からだけでなく、自分たちの身の回りの状況から、高齢化による問題の具体例を考える。 (「デイサービスなどの介護施設のサービスを受ける高齢者が増える」「高齢者と同居していると介護に手間と時間を取られる」など) ○少子化や人口減で起こる社会問題を想像する。(「機械で出来ない仕事で人手が足りなくなる」「医療や介護の仕事をする人が足りなくなる」) (「人口減で町が崩壊する」「日本の経済力が衰える」「物を作っても買ってくれる人が少なくなる」) ○少子高齢化問題を解決できる方法を探ってみる。(「高齢者が働くことを可能にする定年	○「今のペースで少子高齢化が進むと、2050年には1人の高齢者の**基礎年金**を1.2人の現役世代が支えるようになると推計されています。どうすれば現役世代の負担を軽く出来るでしょうか。」 ○「今現在の基礎年金額は年77万円ほどです。月額にすると6万円強です。これを減額したら高齢者の生活は成り立つのでしょうか。２人世帯の平均的**消費支出**は月額20万円を超えます。親が年金で生活できなければ、子どもに負担がさらに増えますが、それで良いですか。」 ○「それだけでなく、身の回りにあることから、どのようなことが考えられますか。」 ○「そうですね。高齢者の日常生活の**介護**も大きな問題です。」「日常生活の介護は24時間365日必要です。休みもありません。とても過酷な仕事です。」「到底、勤務しながら高齢者の介護は不可能です。」「介護サービスや特別養護老人ホームが必要になるのは、そのような事情があります。」 ○「高齢者が増加する一方で、少子化が今のまま進むと2060年の人口は8,674万人に減少すると言われています。現在より4,000万人の人口が減るとどんな問題が起こるのでしょうか。」 ○「そうですね。**人口減**で町が成り立たなくなる地域が出てくるでしょう。**生産人口**が減るので日本の国全体の**経済力**が衰えます。それだけではありません。」 ○「そうなんです。工業製品はロボットや機械で生産量を上げることが出来ますが、生産した商品を買う人が減るので不景気が続くことになります。」 ○「このように考えてくると絶望的になりますが、**解決する糸口**はないのでしょうか。たとえば、高齢者には**生き甲斐**は必要ありま	○年金制度の維持のために年金の支給額を減額すると、高齢者の生活が成り立たなくなるだけでなく、若者の個人負担がさらに重くなることを説明できる。(思考力・判断力) ○自分自身の生活費だけでなく、子どもの養育費や教育費、親の介護費用、さらに自分自身の老後の生活費を確保する必要があることを説明することができる。(思考力・判断力) ○少子化が進むと人口減になり、生産力が落ち込むと同時に消費力も衰えるので経済力が衰えることを推理できる。(思考力・判断力)

	制の改善」「高齢者が働けるような職場を作る」「高齢者の経験や技能を活かすことの出来る機械の開発や職域の開発」など)	せんか。介護を必要とする人ばかりではありません。現役並みに活躍できる人もいますよ。」 ○「私たちは、どんな**対策**を考えることが出来るでしょうか。」	
	なぜ、子どもの数が増えないのでしょうか？		
展開	○合計特殊出生率が2.07よりも低いと少子化になり人口減になることを知る。	○「では、**少子化**が起きていると何で判断するのでしょうか。」 ○「**合計特殊出生率**で判断します。合計特殊出生率は15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものです。2.07よりも低いと少子化になり**人口減**になると言われています。」	○合計特殊出生率の低下によって人口減が起きることを説明できる。(知識)
	○少子化が起きる要因を考える。(「教科書には、少子高齢化社会の背景として、仕事と育児の両立の困難さと結婚年齢の高まりがあると書かれています」)	○「いつから、なぜ少子化が始まったのでしょうか。教科書にどのように説明されていますか。」 ○「そうですね。教科書には、①**仕事と育児の両立**が困難であること、②**晩婚化**があげられています。さらに一般的には、**非婚化**、③**女性の社会進出**や、④**核家族化の進行**があると指摘されています。」	○少子化の背景として、仕事と育児の両立が困難、晩婚化・非婚化、女性の社会進出、核家族化の進行が指摘されていることを説明できる。(知識)
	○出生数と合計特殊出生率の推移を表すグラフから、少子化の始まりと進行を読み取る。	○「では、少子化がいつ頃から始まりだして、どのように推移してきたのか統計で見てみましょう。戦後の出生数と合計特殊出生率をまとめた次のグラフを見て下さい。」  	
	(「1973年が最後です。」) ○合計特殊出生率の低下がいつから始まり出したのを探す。	○「合計特殊出生率2.07の水準を上回っていたのはいつ頃でしょうか。」 ○「1974年に2.05になり、それ以降減り続けています。ですから**少子化**は1974年から始まったのです。何があったのでしょうか。」	○1974年から少子化が始まりだし、合計特殊出生率がそれ以降回復することがないことを説明できる。(知識、資料活用技能)
	○日本の女性の出産数が減った理由を考える。	○「昔は子どもを沢山産んでいた時代もありました。今でも**多産**の国があります。どうして、日本の女性は子どもを産まなくな	

		ったのでしょうか。」 ○「では、昔はなぜ沢山の子どもを産む必要があったのでしょうか。」「実は子どもがお金を稼いでくれたのです。子どもが多いと家計が楽になったんですね。」	
（「分かりません」「想像できないです」）		○「ヒントを出しましょう。1970年に**高校進学率**が80％を超えるようになり、1974年には高校進学率が90％を超えました。」	○高校進学率が80％になった頃と合計特殊出生率の低下の開始時期が一致することを指摘できる。（資料活用技能）
○教科書13頁の『世帯ごとの働き方の推移』のグラフを読み取る。		○「では、教科書13頁の『世帯ごとの働き方の推移』のグラフを見て下さい。**共働き世帯**は増えていますか、減っていますか。」 	
（「1990年あたりから共働き世帯の方が多くなってきています」） ○「共働き世帯が増えて、男性だけが働いている世帯が減っている」ことに気づく。			○1990年あたりから共働き世帯が増加していることを指摘できる。（資料活用技能）
（「男性の給料が上がらなくなったから、女性も働き出した」「生活が苦しくなった」）		○「どうして、1990年から急に共働き世帯が増え始めているのでしょうか？」「実は1991年に**バブル経済の崩壊**があり**長期的な不景気**に日本全体が陥ったんですね。これはヒントです。」	○1990年あたりから共働き世帯が増加している理由を推理できる。（思考力・判断力）
（「子育てにお金がかかる」「共働きは教育費など子育てに必要な資金を得るため」） ○仕事と育児の両立の困難さや女性の社会会進出の関係を考えてみる。		○「そうなんです。多くの世帯では子どもの教育費が家計を圧迫したと考えられます。」 ○「教科書は**共働き世帯**が増えたことで育児が困難になっていることしています。これは解決できないことなのでしょうか。」	○生まれる子どもの数が減りだした理由を推理できる。（思考力・判断力）
○女性の社会進出（労働力率）と合計特殊出生率の関係を整理した国別のグラフを読み取る。		○「次の『OECD加盟24か国における合計特殊出生率と女性労働力率』を見て下さい。女性労働力率というのは、女性の総人口の内で労働についている人の割合です。高いほど女性が働いている国です。どのような傾向が読み取れますか。」  	○OECD加盟国の中では女性が働いている割合が高い国の合計特殊出生率が低いとは限らないことを指摘できる。（資料活用技能）
○OECD加盟国の中では女性が働いている割合が高い国の合計特殊出生率が低いとは限らないことに気づく。 ○先進国で日本より合計特殊出生率が低い国の方が少ないことに気づく。			

（「どちらかと言えば日本より低い国の方が少ない」） （「ほとんどの国」） ○男性の育児・家事労働と合計特殊出生率の関係を諸外国のグラフから読み取る。 ○日本の男性の育児や家事労働時間がほとんどないことに気づく。 ○合計特殊出生率が日本より高い国々の男性の育児時間や家事労働時間は、日本の男性よりもかなり長いことに気づく。	○「工業先進国は合計特殊出生率が下がる傾向があります。しかし、全ての国が低いですか。」 ○「日本よりも**女性の就業率**が高いのに、日本よりも合計特殊出生率が高い国はどれくらいありますか。」 ○「どうして、女性が社会進出する国で、合計特殊出生率の高い国があるのでしょうか。」 ○「では、次の２つのグラフを見て、男性の**家事・育児**時間割合と出生率の関係を説明してください。」  	
（「男性が育児をすることに賛成」「育児方法を知らないとできないから良い取り組みだと思う」「保育所が足りないと社会問題になっています」など） ○保育所に預けられる子どもの立場で考えてみる。「女子差別撤廃条約」は「子どもの利益が最優先」だと唱っていることを思い出す。	○「教科書では、男性に**育児方法**を教える行政の取り組みが紹介されたり、**保育所**の整備が必要だとされています。あなたは保育所についてどう思いますか。」 ○「なるほど。でも、男性に育児の仕方を教えるだけでは**子育て**は実現できないでしょう。生活の枠組みが大変なんです。」 ○「子育てには時間も体力が必要ですし、子どもが成長する間の**生活費**の心配があります。**教育費**は長い期間必要です。**育児休暇**や**育児手当**などの制度が確実に保障されることも必要です。」 ○「**保育所の整備**は親には必要かも知れません。でも、**子どもにとって**は、育ててくれるのが保育所か親のどちらが無いのかは別問題です。その議論が抜けているような気がします。『**女子差別撤廃条約**』は「子どもの利益が最優先」だと唱っています。」 ○「**教育費**の公的負担があれば個人負担は軽くなります。若い人の**賃金**が上がって**労働時間**が短縮されると男性の育児や家事労働参加も可能になるでしょう。」 ○「ところで、晩婚化だけを少子化の要因にするのは少し疑問があります。と言うのは、少子化	○少子化の原因を仕事と子育ての両立の困難さだけに求めることはできないことを指摘できる。（思考力・判断力） ○子どもの立場に立って考えることが出来る。（思考力・判断力）

	（「近年は50歳の人で結婚していない人が男性で23.4%、女性14.1%いると書かれています。」）	が始まった1974年の初婚年齢の平均は男性26.8歳、女性24.5歳だったからです。それが1990年には平均で男性28.4歳、女性25.9歳、2000年では男性28.8歳、女性27.0歳になりました。何が背景にあるんでしょうか。」 ○「12頁の『家族類型別世帯数の推移』のコメントには、50歳で結婚していない人がどれ位いると書いてありますか。」 ○「そうですね。結婚しないのか。出来ないのかは分かりませんが、少子化と関係がありそうです。」 ○「次に、少子化に直接的な影響を読み取れそうな情報があります。現在の日本の若者は**結婚**したいとあまり考えていないようです。社会科通信で紹介している新聞記事を読んで下さい。」 ○「結婚したくても仕事がきついとか、賃金が低すぎるなどの理由が多く挙げられています。」 ○「結婚したい若者を支援する場合、どんな支援策が効果的だと思いますか。授業の最後に考えてみましょう。」 ○「ここまで見てきたことを整理すると、対策のヒントは次のようになります。子育て支援策の充実、教育費の負担軽減、労働時間の短縮で家事労働時間を支援する、高齢者でも働ける社会的な制度、介護制度の充実、移民を受け入れて労働者人口を増やす方法などです。」	○非婚化が合計特殊出生率の低下に影響を与えていることを説明できる。（思考力・判断力） ○結婚したい気持ちを実現するための支援方法について具体的に説明できる。（思考力・判断力） ○少子高齢化問題の要因を改善することが、課題解決の対策になることを具体的に説明できる。（思考力・判断力・表現力）
	少子高齢化問題は生きている限り必ず襲ってくる問題です。 たとえば、少子化問題を乗り越えるために、「結婚したい人をどのように支援しますか」。自分がどのような方法で解決したいか、選択する解決方法と選択理由を説明して下さい。 人生100年時代を視野に入れて、グループ学習で意見交換しましょう。		
	○グループ学習の課題を確認する。 ○ノートにメモをとりながら、自分の意見を考える。 ○４人１グループの体勢になるために机の向きを変える。 ○自分の意見を簡潔に分かりやすく伝える。 ○自分の意見の理由と結論をキーワードだけで書く。 ○顔を見て、うなずき	○「はじめに５分間は自分だけで考えて下さい。その後８分間、**４人グループで**意見交換して下さい。」「今日は全体発表をする時間的余裕がありません。ノートに自分の意見とグループで出た意見を記録しておいて下さい。」 ○グループで話し合わせる。（８分） ・グループ学習は、原則的に１グループ４人で行う（5人以上にはしない）。 ・机を向かい合わせにして、真ん中にホワイトボードを置き、自分の意見を書きながら話をするよう指導する。 ・話し合いが進まないグループに	○グループの話し合いに参加できている。【形成的評価】 ○それぞれのグループの話し合いがスムーズに展開されているかどうかを歩きながら確認する。【形成的評価】 ○話し合いが進展しな

	ながらしっかり聞く。 ○他の人の意見を批判しないで、対案を提示する。	は、教師が介入し、論点の一つをヒントに与える(「自分が結婚するとすれば、どんな条件が必要になるか考えてみよう」)	い場合は、自分が結婚するとすれば、どんな条件が必要になるかを考えさせる。
終末	○様々な意見があることを知る。 ○それぞれの意見が異なる視点から提案されていることを知る。 ○自分の意見と異なる意見をノートにメモをする。 ○他の人の意見を聞いて、自分の意見を振り返る。	○「では、時間が来ました。３つ位のグループで出た意見を聞いてみたいと思います。積極的に発表してくれませんか。」 ○積極的な発表がない場合は、任意に指名して、３つのグループで出た意見の発表を求める。 ○出た意見の要点を板書する。 ○「自分の意見と異なる意見をノートの右側にメモしておきましょう。」	①人口ピラミッドなどの統計資料をもとに、日本における少子高齢化の進展と、その原因を推理し説明できるようになる。 ②少子高齢社会における課題を発見し、その課題を解決する取り組みを調べたり、自分の取るべき行動の選択肢と理由を説明できるようになる。

6　本時の到達度目標(評価基準)とＢ基準に到達しない生徒への指導計画

※　本時については、主に「知識・技能」についての評価基準を示す。

十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
①少子高齢社会の意味を正確に説明し、少子高齢化の推移と背景を具体的に説明できる。 ②少子高齢化の背景として仕事と育児の両立の困難さや結婚年齢の高齢化が言われていることを具体的に説明できる。 ③少子高齢社会でおこる問題を具体的に説明できる。 ④女性の社会進出と少子化は直接的には結びつかないことを具体的に説明できる。 ⑤少子化問題を解決するには、労働時間の短縮、若者の賃金の上昇、教育費の公的扶助、育児休暇制度の拡充などの社会的な支援が必要になることを根拠を示して指摘できる。	①少子高齢社会の意味を正確に説明し、少子高齢化の推移と背景を概ね説明できる。 ②少子高齢化の背景として、仕事と育児の両立の困難さや結婚年齢の高齢化が言われていることを概ね説明できる。 ③少子高齢社会でおこる問題を概ね説明できる。 ④女性の社会進出と少子化は直接的には結びつかないことを概ね説明できる。 ⑤少子化問題を解決する方法を提示できるが、根拠が弱かったり具体性がない。	Ｂ基準の５項目の内で次の項目については、確実に説明できるように回復指導する。 ①1960年と2060年の人口ピラミッドを比較して、高齢層の割合の違いと16歳未満の子どもが占める割合が異なることに注目し、少子高齢社会の意味を説明できる。 ②少子高齢社会でおこる社会問題の概要。特に、人口減少による景気の停滞と社会保障制度の維持が困難になることが説明できるようにする。 ③少子化を解決するには社会的な支援が必要になることが説明できるようにする。

7　添付資料

①　社会科通信「ついに少子高齢社会」

②　社会科通信「少子化の原因と対策を考えよう」

③　ノートプリント(板書計画を兼ねる)

◎◎市立◎◎中学校　第３学年　社　会　科　通　信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

No.7

ついに、65歳以上の人口が総人口の *4分の1* を超えた

少子高齢社会の原因と問題点を考えよう

少子高齢化は、出生数の減少と、高齢者の増加の２つの要因で起きている。

出生数は、第２次ベビーブームの1974年(昭和49年)以降、減少傾向が続き、合計特殊出生率[*1]は、2005年に1.26の最低を記録した。2015年には1.46に上昇したが、欧米諸国と比較して著しい少子化が進行している。一方で、平均寿命も伸び、65歳以上人口の比率で示される高齢化率は、1970年代から急速に上昇した。1994年には「高齢社会」といわれる14％を超え、ついに、2015年の国勢調査では、高齢化率は26.7％になった(下の新聞記事参照)。この高齢化率は他の先進諸国を上回る。

2016年(平成28年)6月30日(木)　毎　日　新　聞

65歳以上 4分の1超え

昨年国勢調査 15歳未満は最低

1％抽出速報

総務省が29日発表した2015年国勢調査の「1％抽出速報」によると、総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は、1920年の調査開始以来最高の26・7％となり、初めて高齢者が4人に1人を超えた。

前回の10年調査から3・7ポイント上昇した。15歳未満は0・5ポイント下がり、12・7％で最低を更新。少子高齢化が一段と進み、社会保障の財源確保や地域の維持に大きく影響しそうだ。

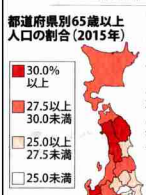
働いていたり、職を探していたりする女性の割合（労働力率）は、ほとんどの年代で前回から上昇したものの小幅にとどまり、子育て世代は落ち込む「M字カーブ」は依然として残ったままだ。1人暮らしの世帯は過去最多となった。

高齢化率は22・4％のイタリアや21・2％のドイツなどを引き離し、世界で最高水準。逆に15歳未満の割合は最低の水準となっている。都道府県別では、高齢化率は前回比比べ全都道府県で上昇。41道府県で25％を超え、うち19県は30％以上だった。最高は秋田の33・5％で、高知32・9％、島根32・6％と続いた。秋田は前回より4・0ポイント上昇した。25％を切ったのは埼玉、東京、神奈川、愛知、滋賀、沖縄の6都県。

女性の労働力率は49・8％で前回から0・2ポイント上昇。年代別で見ると、25～29歳は80・9％で、比較可能な50年調査以降で初めて80％を超えた。ただ出産や子育ての時期と重なる人が多いとみられる30～39歳は、前後の年代に比べて下がっているのが特徴だ。

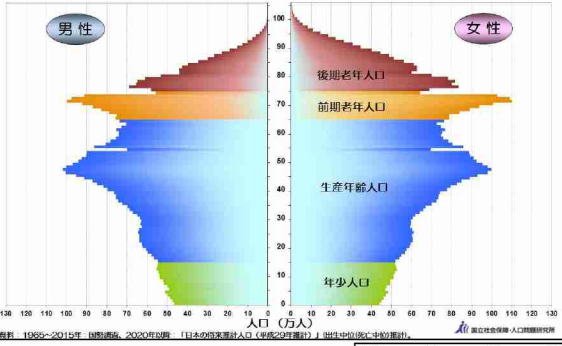
世帯人数は1人暮らしが32・5％で最多。未婚者が増えていることに加え、高齢者の単身世帯も増加傾向で、65歳以上では男性の8人に1人、女性の5人に1人が1人暮らしだった。

都道府県別65歳以上人口の割合（2015年）



*1 合計特殊出生率(ごうけいとくしゅしょうりつ)：その年次の15～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

【2020年度の日本の人口構成予想】



資料：1955～2015年 国勢調査、2020年以降 「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生中位(死亡中位)推計。

国立社会保障・人口問題研究所

何が問題になるんだろう？

少子化の要因は、未婚化・非婚化、晩婚化・晩産化だと言われている。

なぜ、そんなことが起きるのだろうか。君たちは自分の問題としてどう考えるか？　また、社会全体ではどうするべきなのだろうか？

①結婚したい若者を支援する方法は？

②育児をしながら働く方法はあるのか？

③自分だったらどう切り抜ける？

少子高齢化の影響をどう解決するか？

厚生労働省は、少子高齢化が進むと年金や医療・介護保険の給付が増大し、今の制度のままであれば2050年には1人の高齢者の基礎年金を1.1人の若者で支えることになると言う。

一方で、政府の中でも経済産業省は、高齢化による労働人口の減少がすぐには経済成長の衰えにはつながらないと研究結果を発表している。

2050年には君たちは45歳か46歳だ。

④自分と家族はどう生き抜くのか？　どんな方法があるのだろうか？

⑤国や地方自治体がするべきことは？　行政に対して自分は何ができるのか？

⑥年金制度や健康保険制度を維持するために、国民は何を負担するべきなのか？

毎日新聞
2016年（平成28年）6月25日（土）夕刊

20代「結婚したい」激減

男性「収入少ない」

20代の独身男女のうち、結婚したい人の割合が3年前に比べて男性で8.8%ポイント、女性で約3.3%ポイント減少したことが、明治安田生活福祉研究所の調査で分かった。男性が独身でいる理由は「収入が少ない」が最多。所得が理由の「結婚に消極的になっている現状が浮かぶ。

調査は今年3月、恋愛と結婚をテーマに全国の20～40代の男女を対象にインターネットで実施、約3600人が答えた。

20代では「できるだけ早く結婚したい」「いずれ結婚したい」との回答が、男性で3年前の67・1%から38・7%に減少、女性は82・2%から59・0%に落ち込んだ。30代では男性が40・3%、女性は45・7%でいずれも10%以上減った。

独身でいる理由は「男性では家族を養うほどの収入がない」が最多だったのに対し、女性では「結婚したいと思える相手がいない」だった。

20、30代の未婚女性の半数以上が結婚相手に年収400万円以上を望む一方、実際にこの収入があるとみる20代男性は15・2%、30代男性は37・0%にとどまった。調査担当者は「このギャップが男性が結婚に前向きになれない一因とみられる」と指摘している。

女性「相手いない」

2021.5.17

◎◎市立◎◎中学校　第３学年　社　会　科　通　信

なんでやねん

発行責任者　倉橋　忠

No.9

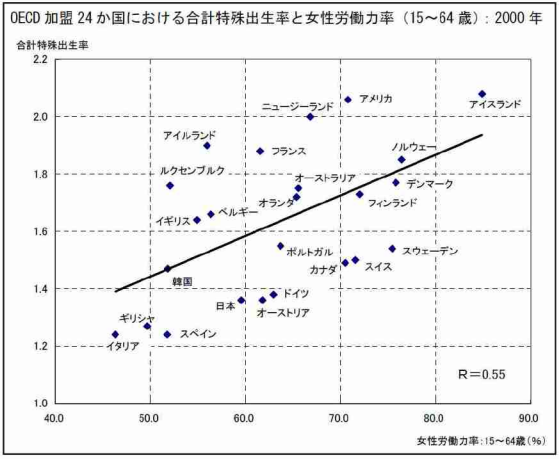
少子化の原因と対策を考えよう

一般に、少子化の背景(原因)として挙げられる社会事象として、①女性の社会進出が進んだ、②晩婚化・非婚化、③仕事と育児の両立が困難、④核家族化の進行があるとされている。たとえば、『ビジュアル公民』p.16でも同じように解説されている。

しかし、それらが本当に少子化の原因と言えるのだろうか。内閣府が発表している統計資料やグラフから読み取れることと照らし合わせて考えてみよう。

なお、晩婚化・非婚化については、『ビジュアル公民』p.16の資料を参照しよう。

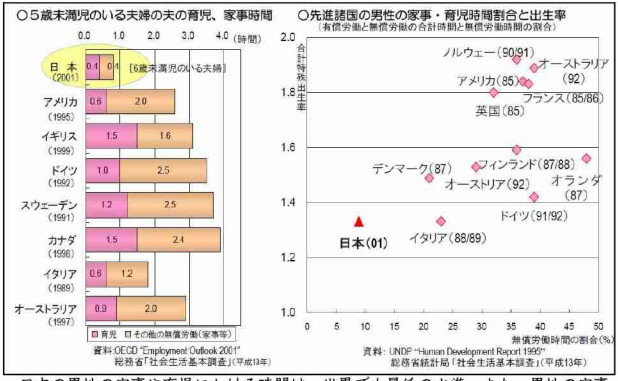
(1)　女性の社会進出は、少子化を必然的に招くか



上のグラフは、女性の就業率と出生率の関係をまとめたものである。日本よりも女性の就業率が高いのに、日本よりも合計特殊出生率が高い国はどれくらいあるのだろうか。日本より合計特殊出生率が低い国で、日本より女性の就業率が高い国はどれくらいあるのだろうか。

どうして、女性が社会進出する国で、合計特殊出生率の高い国があるのだろうか。

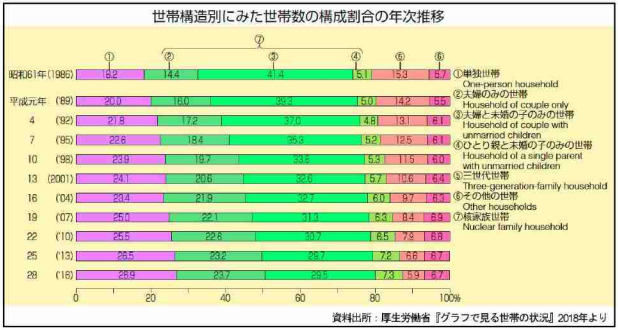
(2)　男性の家事・育児時間と合計特殊出生率の関係



日本の男性の家事や育児にかける時間は、世界でも最低の水準。また、男性の家事・育児時間が短いと、合計特殊出生率が低いことも外国と比較すると見えてくる。

先進国の男性と比べて、日本の男性の家事・育児時間が、なぜ短いのだろうか。男性の意識の問題であろうか。ヒント：「過労死」は「karoshi」と英語になっている。

(3)　核家族化は進んでいるのか



核家族とは、夫婦だけか、親と未婚の子どもからなる家族のことを言う。子育ての関係で考えると、核家族化が進行しているのなら、上のグラフでは③と④の家族が増加しているはずである。1986年で最も多い家族形態は③の家族が41.4%だった。

では、2016年で増加率の多い家族形態は何と何か。②の家族が増えた理由は何か。

5　少子高齢化　－変わる人口構成と家族－

【 学習目標 】① 人口ピラミッドなどの統計資料をもとに、日本における少子高齢化の進展と、その原因を推理し説明できるようになる。
② 少子高齢社会における課題を発見し、その課題を解決する取り組みを調べたり、自分の取るべき行動の選択肢と理由を説明できるようになる。

(1) (少子高齢化)とは

子どもの数が減り、高齢者の数が増えること。

(合計特殊出生率)の低下 と (平均寿命)が延びている社会事象

◎1970年頃までは(核家族世帯)と(三世代世帯)が多かった

家族形態も変化した ↓

◎現代では、夫婦だけの世帯と(単独世帯)が増える

Q1 なぜ、子どもの数が増えないのか？

◎(子育て)に多額の資金が必要
◎(若者の所得)が低い
◎(労働環境)が厳しい
◎若者の(未婚率)が高まった
◎女性の(高学歴化)が進んだ
◎女性の(就業率)が高まった

Q2 なぜ、高齢者が増えるのか？

◎(戦争)がなかった
◎(飢饉)がなかった
◎食生活・(栄養状態)が良くなった
◎住環境・(衛生環境)が良くなった
◎(医療技術)や医薬品が進化した
◎社会保障制度が整備された

(2) 少子高齢化でどんな問題が起こるか

◎(年金制度)の維持(いじ)が困難(こんなん)になる
◎(医療費)が増大する
◎生涯(働き続け)ないと暮らせない
◎(人口減)で町が崩壊(ほうかい)する
◎日本の(経済力の低下)が起きる
◎医療や介護の(人手不足)が起きる

(3) 少子高齢化への対策はあるか

◎(子育て支援策)の充実の必要
◎(教育費)の負担軽減
◎(労働時間)の短縮で家庭支援
◎(高齢者でも働ける)制度への改革
◎(介護制度)を充実させる必要
◎(移民)を受け入れる？

生きる限り必ず襲ってくる問題

人生100年時代を視野に

(4) 社会や自分にできることは何か？

※生徒が自分で考えた解決策を自由に書く欄。例えば、①教育費の負担軽減の実施。②労働時間の短縮を実現し、最低賃金を高くする。③家賃の安い公営住宅の増設。④長期育児休暇・介護休暇の義務化。⑤生涯働き続けることを可能にする職場作り。⑥増税を受け入れる。⑦ロボット税の導入⑧法人税の増税。⑨所得税の見直し。など